

平成 23 年度 第 3 回がまごおり協働まちづくり会議 会議要旨

日 時 平成 23 年 8 月 30 日 (火)
15 時 00 分 ~ 16 時 45 分
場 所 蒲郡市役所新館 6 階 601 会議室

出席者：和泉会長、金子副会長、西川委員、水野委員、尾崎委員、太田委員、小田委員、小林浩子委員、榎本委員、小林康一委員、
(事務局) 竹内、川畑、酒井、石川、山崎

欠席者：山本委員

第 3 回会議決定事項等

議題	<p><u>1 議事録の公開について</u></p> <ul style="list-style-type: none">・ 公開用の議事録は要点を記載したものとする。・ 委員の確認を得てから公開する。 <p><u>2 はじめの一步後期募集審査結果について</u></p> <ul style="list-style-type: none">・ 2 団体 (手織り同好会、G-STCC) が申請、助成を獲得。・ 残予算があるが、再度事業募集は行わない。・ 次年度は残予算が発生した場合の取り扱いをあらかじめ決めておく。 <p><u>3 MINTO 機構募集状況等について</u></p> <ul style="list-style-type: none">・ 1 団体 (NPO 法人音魂ネット) の応募。プレゼン審査の結果合格。
その他	<ul style="list-style-type: none">・ 食育プロジェクト進捗状況報告・ 次回会議は 10 月 28 日 (金) 午前 10 時から 5 F 庁議室

1 開会

2 議題

1) 会議録の公開について

- ・ 会議録の公開形式について説明。

各委員の意見は下記のとおり。

○ 会議録を公表する場合、決定事項が第一。次回の会議で簡略化したものを事務局が提示し、各委員が確認後、公表してはどうか。

○ 簡略された要点筆記的な形で良い。

○ 要点筆記の公開用と詳細資料としての記録の 2 つ必要ではないか。

結果：公開用は要点筆記。公開についてはこの会議で確認後とする。議論の経過や細かい議論を進めていくために、詳細を記入したものを別に作成する。

2) はじめの一步後期募集審査結果について

- ・ 事務局より 7 月 10 日に実施した「はじめの一步」部門の後期募集の面接審査会結果を報告。申請団体は 2 団体 (手織り同好会、G-STCC) のうち 2 団体合格。両団体、申請金額の満額各 10 万円 合計 20 万円を助成決定。反省点は、告知不足と応募団体の公益性理解の 2 点。

前期と後期の面接審査後に申請団体に行ったヒアリング調査結果について説明。

ヒアリング調査結果についての各委員の意見は下記のとおり。

○ 面接審査の前段階が必要。事前のフォローやイメージのトレーニングとか必要ではないか。それは本来センターでやっている事。

○ 団体はこれしかないという決めつけ型の発表。税金を使うわけですから、お金をどうやって活かしていくかを考え、いろんな選択肢を考えた上、これがいいと、

できるだけ出してほしいと思う。センターで情報提供する場合はそういうところを言ったほうがいいのかも。

- これから今後エントリー団体を増やすとき、ひとつはあくまで新しいグループの数名の人達が新しい将来の夢にむけてやる事業。それとも既存のグループの人達が新しい事業、まちづくりをするための事業の両方がいいわけですね。
- そうです。ただ新たな人達が協働に関わり始めてる部分もあり、こうしたストレスが少しずつ出てきた時に、こういうやり方もあるのかと考え方が代わっていき、いずれうまくいけばこの後、「ほとぼしる情熱」支援部門に申請される団体も出てくるのではないかと。
- 団体の中にはセンターでアドバイスを受けてない場合もある。
- コンセンサスが取れてない。募集した人と、合意形成がされてないから否定的な言葉になるのではないかと。そこをきちんと募集要項からもう少し具体的に書いたほうがいいのか。誰もがわかりやすい公益とは何か書いたりしてはどうか。
- 募集要項ではスペースの問題もあり、細かいところまで書けないと思う。センターの方でどれだけコンセンサスがとれるのか、情報提供できるのかというのが大きな課題になると思います。
- 審査員は公平性など色々なものを達観して見てもらえる方々になってもらいたい。この制度を続けていくことが次への可能性、次の協働の担い手を作っていくという動きになっているということを理解してもらおうと有難い。
- 審査員話がありましたけれども、審査する側として10万円もらった後、次の年はどうするのかという、上級者むけになるかもしれないが、そういったコメントをしてきたかと思います。協働する側は、1年ではなくて続けて行くということをきっちり自分らの活動として臨んでもらいたい。
- 税金を使いますから筋は通さないといけない。それはきつく感じられる事があっても仕方ないという気がする。

・ 予算残額について事務局説明。

後期募集が終了し、残予算が30万あることを説明。予算は単年度執行が原則であり、このまま未執行であれば基金に積み上がったままになることを説明。

予算残額の取り扱いについて各委員の意見等は下記のとおり。

- 30万残っていても、新たに再審査という事になると審査員さんの負担もかかるし、一区切りして来年度からまた新たな予算でいいと思う。
- 来年は今年30万残っている。30万、来年上乗せしてやるのか、130万にできるのか。
(事務局補足)
前年度が30万余ったから次130万というのは乱暴な議論。来年度も100万円がベースになってくるという事はぜひ、ご理解頂きたい。
- 今年はこれだけしか、団体さんが出てこなかったのであれば再募集は事務的にも手間もかかると思いますので、このまま募集がなくてもいいと思う。
- やるべきだと思います。告知不足、説明会の未実施、ポスターチラシ未制作。こちらの都合でやらないというのはいけません。
- 募集をしても来るかどうか。10月から11月、12月の時くらいまでは結構行事がありますが、年をあけてしまうと極端に行事が減ってしまう。
- 意見二つに分かれていますがお金がある限り募集するというのは当然です。そうすると事務局側として手続き的な面の問題が色々出てくると思いますがどうですか。

・ 事務局回答

告知が少なかったという意見があったので、次年度以降に反省を踏まえて、そういうあり方も含めてやっていくことも一つの手法であるということで、もう一度ご審議いただければと思います。

- 再募集する方向も一つありますが、時間的に、また色々な問題を抱えている事ですから来年度以降からどうしていくか。余った場合どうするか、足りなかった

場合どうするか。今年度はこれで再募集はしないという考えで来年度以降どうするかという話を、もう一回議論する場を設けてやっていくというのはいかがでしょう。

- 僕がもしここの代表だったらすぐ謝ります。それぐらいの事と思います。
- 機会があれば応募したい団体もたくさんありますよね。
- この部分はきっちり議事録を残して次年度同じようなパターンが出てきた場合とか、どのような展開を作っていくのかシミュレーションもたてて、今年きっちり反省し何らかの形でちゃんと市民に伝えながら、やっていかねばならない。

結果：議事録に今回の議論の内容を記載する。予算残額が出た場合の対応を次回会議の議題の一つとする。

3) MINTO機構募集状況等について

- ・ 事務局より MINTO 機構の資金を活用した蒲郡市のみなとのまちづくり推進事業助成金について説明。募集した結果、1つのNPO 法人が申請。バリアフリーの解消および防災啓発とにぎわい創出のためのハード整備事業の採択が決定。630万が助成される。今後決定通知を事務局から出し協議しながら事業を進める。

上記説明について、委員の意見は特になし。

その他

- ・ 平成23年度食育プロジェクト事業進捗状況報告
 - サポーター事業
モデル園4園の決定 サポーター募集開始。(保護者・地域など)
講習会10月から各園で開始。
 - 情報提供事業
相談件数 4件。
モデル園(形原北保)でおやつメニュー作成予定。
事業計画どおり進行中。

以上